雑学書庫 知識の記録

泥の中の腐敗を暴いた記者たち、マックレイカー（Muckraker）

記事のURL

https://www.gklibrarykor.com/ja/article/11098/

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

食品工場の不衛生な実態や大企業の不公正な取引が記事で世に知られると、人々は怒り、政府は対策を打ち出します。記者が粘り強く掘り下げた一本の記事が法律や制度を変えることは、今日ではそれほど珍しくありません。しかし、こうした調査報道のルーツをさかのぼると、100年余り前のアメリカで「泥をかき集める人」というありがたくないあだ名を付けられた記者たちに出会います。 それが「マックレイカー（Muckraker）」です。マックレイカーとは、簡単に言えば、1890年代から1920年代にかけてのアメリカ革新主義時代に、政治腐敗、独占企業の横暴、劣悪な労働環境といった社会の暗部を粘り強く取材して暴いた、改革志向の記者や作家たちのことです。 本記事では、マックレイカーという呼び名が付いた経緯と彼らが活躍した時代背景、代表的な暴露記事とその影響、そして今日の調査報道に残した遺産までを順に見ていきます。 腐敗を暴いた記者たちの時代 大統領が付けた呼び名 マックレイカーという呼び名は記者たちが自ら名乗ったものではなく、当時の大統領の演説をきっかけに広く使われるようになりました。 （1）『天路歴程』に登場する肥やし熊手を持つ男イギリスの作家ジョン・バニヤン（John Bunyan）が1678年に出版した『天路歴程（The Pilgrim’s Progress）』には、肥やし熊手を持った男が登場します。彼は頭上に